

2024 年度 事業計画

社会福祉法人 晴誉会

1、総論

社会福祉法人晴誉会の掲げる理念のもと、以下の各項目において方針に則った保育・教育活動、施設運営の実現を下記の計画のもと推進していく。

2、2024 年度の動向

<安定した運営>

近年の物価高騰により、法人運営は難局に対峙しており、未だに安定とは程遠い状況にある。2024 年度においても情勢と動向をつぶさに確認し、安定した運営を目指すこととしていく。

<組織体制>

組織体制としては大きな変更を計画していない。前年に継続して1法人2施設の体制の下、法人本部を含めた法人組織としての運営管理、組織体制の確立を課題としていく。

両施設の提供するサービスの均一化を図り、バランスを保ちつつ、必要な情報や要素が欠けることのないように努めていく。

<1号枠の受け入れと2・3号枠の定員について>

昨年度の運営状況を鑑み、2023 年度も1号認定こどもの積極受け入れは行わず、福祉提供を必要とする在園家庭への支援として1号枠を活用していく。

今年度も両施設のキャパシティを活かした受け入れを実施していく。

<職員体制>

経理状況を鑑みるに、過去の制度下では最大の職員数となる。

新制度下での対応を適正に行なうためにも、職員数の拡大・維持は必要であると思われる。

<人材育成>

職員を確実に育成していくためにも中堅管理層（指導者層） および 管理層の育成が課題である。今後も、職員の研修・育成体制の充実を図るために、またチュータ制度の一層の充実のためにも、外部講師による管理職層の研修を継続して実施していく。

今後も継続的に、各能力に応じた計画的な法人内人材育成を計画していく。

<研修計画>

随時実施していく。

<保育体制>

近年の課題である法人の保育理念・基本方針に則した保育の継承継続に関しては、現在は施設間で保育の内容に差がある状況である。相互の年間計画の摺合せを継続していく。

3、施設運営・法人運営

<山手台保育園>

- ・地域の保育ニーズは鈍化傾向にある。2023年度は かなり少ない0才児利用者での推移となった。その反省を踏まえ、当初園児数は定員数を勘案した状態での開始となる。
- ・2015年度に大規模改修を実施したが、2018年度の震災その他を受け園舎全体に補修・改修が必要な箇所が散見されている。必要な修繕を実施していく。
- ・地域の保育ニーズは、山手台東町・山手台新町への新規住人の流入に伴い、山手台地区の児童数が近年になく増加傾向にある。山手台新町3丁目の開発により、この傾向が継続する見込みである。
- ・育児休暇の延長や世情の推移に伴い、0歳児の保育ニーズがかなり減少している。これは山手台新町のみならず茨木市北ブロックで見受けられる傾向である。

<彩都保育園>

- ・2006年度から建築15年を迎え、園舎全体に補修・改修が必要な箇所が散見されている。長期的な修繕計画の実施を検討している。
- ・地域の保育ニーズは町の成熟に伴い やや低下傾向にあったが、彩都茨木市域に新たにマンションが建設され、彩都の保育ニーズは増加している。
- ・地域ニーズとしては、低年齢の受入希望・待機が多い状態である。

<法人>

- ・幼保無償化の影響を慎重に見極めていく。
- ・管理職員、中堅職員の育成に努めていく。
- ・ICTを含めた業務省力化に努めていく。

4、保育を取り巻く環境

<茨木市行動計画>

両施設に、この3年間で新設園が近隣に設立された。影響を注視していく。

<職員処遇に関して>

継続して、職員処遇を向上していく。

<新子ども子育て制度>

「こども誰でも通園制度」については、両施設においてすでに緊急一時保育を子育てサポート事業として実施しており、導入について検討していない。

5、事業計画

<彩都保育園の償還計画に関して>

彩都保育園の建設資金の償還が行われている。継続的な資金計画が必要とされる。

以上